

## 6 - 1 宮古・八重山諸島付近の海底地形・地質構造

### Submarine Topography and Geological Structure in the Vicinity of Miyako and Yaeyama Islands

海上保安庁水路部

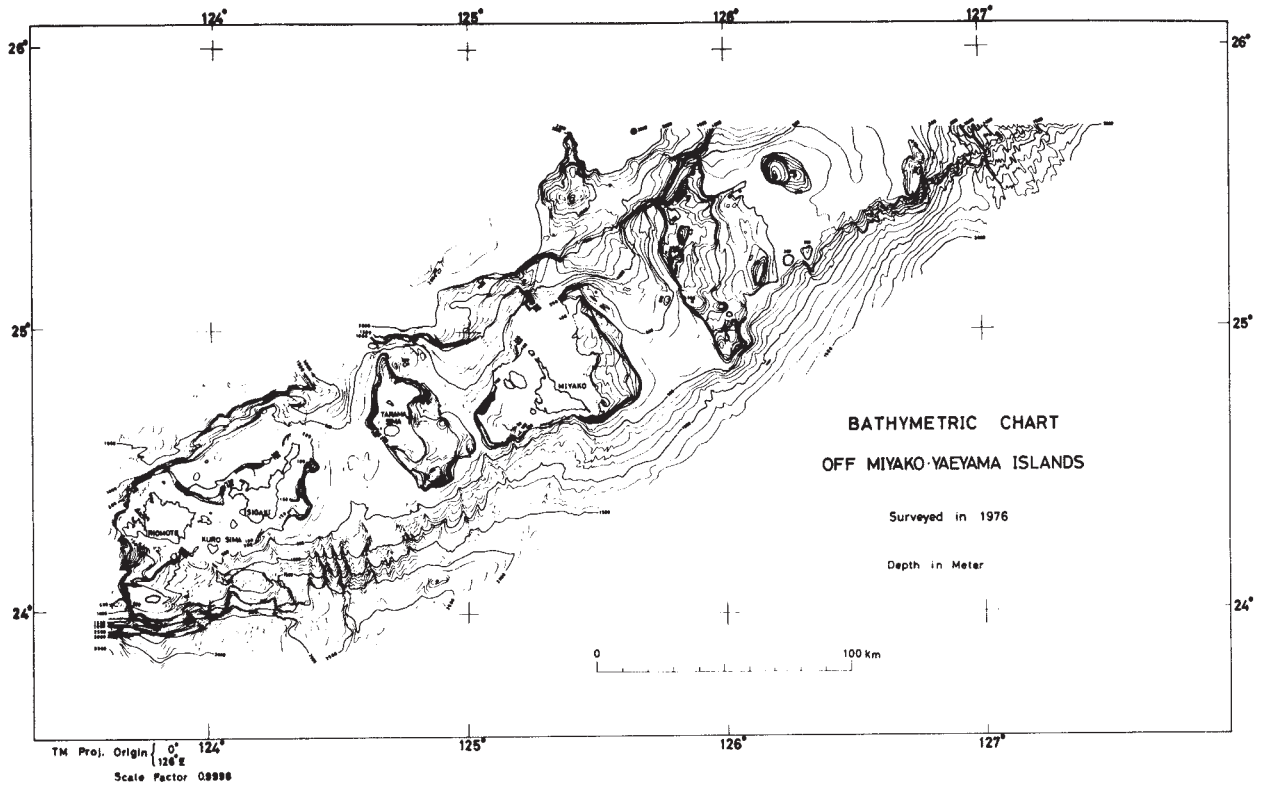
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和51年4月～7月にかけて、大陸棚の海の基本図整備を目的とする海底地形・地質構造等の調査を南西諸島海域で行なった。測線間隔2海里、音響測深、音波探査を実施した結果つぎのような事実が判った。

琉球海嶺（仮称）頂部は島棚及び水深200～400mの平坦面で構成され、沖縄舟状海盆側斜面は海嶺方向（北東－南西、東北東－西南西）の雁行する海底崖で、海溝側斜面は比較的単調な緩斜面で構成されている。しかし、海溝側斜面の波照間島沖は海底崖となっており、石垣、宮古島間の南方には海底谷群がある。沖縄舟状海盆は平坦底を形成しており、海嶺の基部に沿って海丘列が見られる（第1図）。

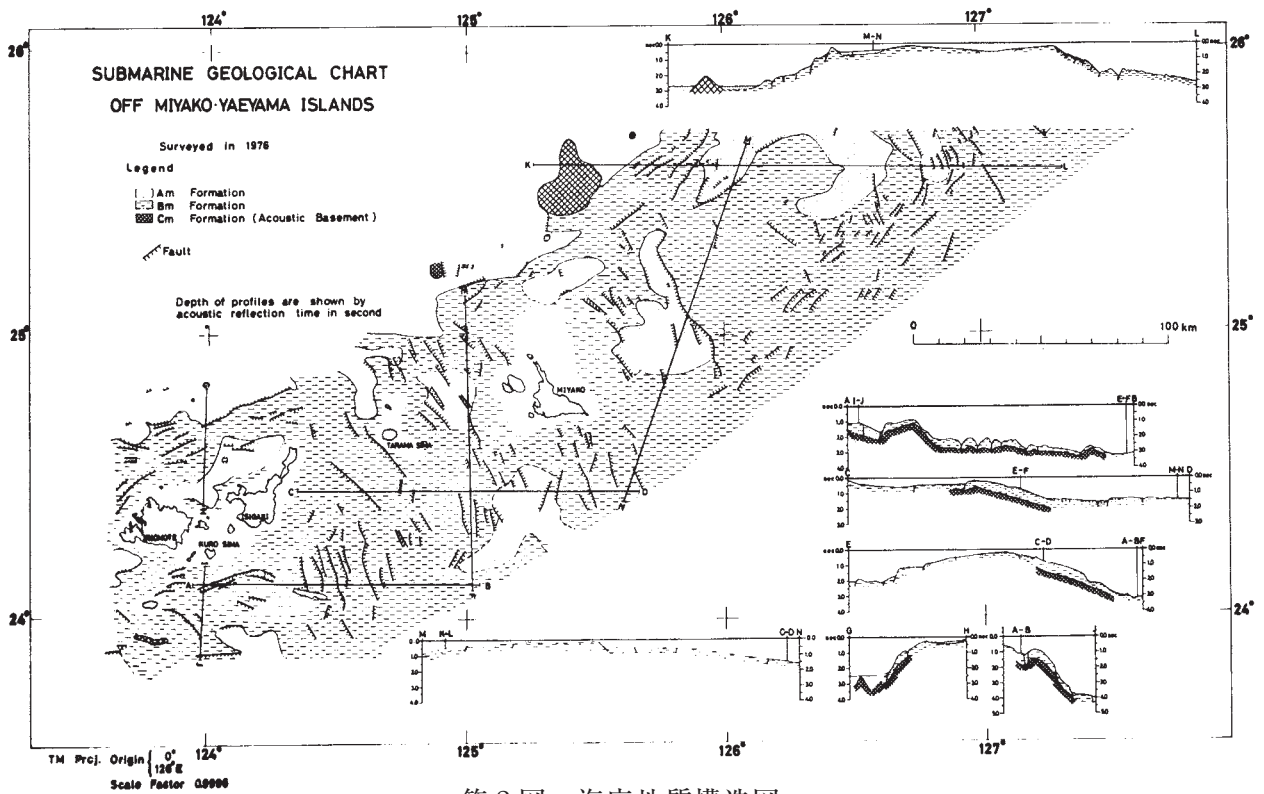
この海域の地層は音響的層相・不整合面などにより、上位からAm、Bm、Cm層に区分した。Cm層は琉球海嶺の基盤を構成しており、多良間島から西表島にかけての海溝側斜面海底下に識別される。Bm層は琉球海嶺頂部から海溝及び沖縄舟状海盆側斜面に至るほぼ全域に分布し、Am層に薄く覆われているものの露頭と見られる所が多い。Am層はBm層を覆って分布し、沖縄舟状海盆に厚く堆積している。Am・Bm・Cm層はそれぞれ第四系、鮮新統、鮮新統又は先鮮新統相当層と推定している。琉球海嶺はBm及びCm層で構成される背斜状の高まりで、沖縄舟状海盆側斜面は海嶺方向の断層によって切られ、海嶺はこれに直交する方向の断層（北西－南東、北北東－南南西、北北西－南南東）によって地塊化が進んでいる。海嶺頂部はBm層を切頭して一部Am層がこれを覆いながら平坦化されている。海溝側斜面は海嶺方向と、石垣・宮古島間の南方に見られる北北西－南南東の断層群により特徴づけられる（第2図）。

（桜井 操）



第1図 海底地形図

Fig. 1 Bathymetric chart.



第2図 海底地質構造図

Fig. 2 Submarine geological structure chart.